



プロフィシエンシー論 から見た生成AIの 日本語能力

李在鎬（りじえほ、早稲田大学）



狙い (伝えたいこと)

1

生成AIを組み込んだ作文診断システムの可能性

2

生成AIの文章模倣は限定的。特に初級の文章に関して

3

AIを「鏡」として活用。自己調整学習のツールとして

研究背景

生成AIを組み込んだ日本語作文診断システムの開発と普及に関する研究

研究課題/領域番号	24K00078
研究種目	基盤研究(B)
配分区分	基金
応募区分	一般
審査区分	小区分02090:日本語教育関連
研究機関	早稲田大学
研究代表者	李 在錦 早稲田大学, 国際学術院(日本語教育研究科), 教授 (20450695)
研究分担者	浅尾 仁彦 国立研究開発法人情報通信研究機構, ユニバーサルコミュニケーション研究所データ駆動知能システム研究センター, 主任研究員 (10755119) 三谷 彩華 江戸川大学, 国際交流センター, 講師 (20831960) 毛利 貴美 岡山大学, グローバル人材育成院, 准教授 (60623981) 岩崎 拓也 筑波大学, 人文社会系, 助教 (60818037) 長谷部 陽一郎 同志社大学, グローバル・コミュニケーション学部, 教授 (90353135) 石井 雄隆 千葉大学, 教育学部, 准教授 (90756545)
研究期間 (年度)	2024-04-01 – 2027-03-31

<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00078>

The screenshot shows the jWriter system interface. At the top, there is a header with the logo and language selection (日本語 (JA), 英語 (EN), 詳しい情報, ポータル). Below the header, there is a text input area with placeholder text "ここに日本語の文章を入力してください..." and a target character count input field set to 300. A button "実行" (Execute) is located to the right of the input area. The main content area is divided into sections: "入力" (Input) and "テキスト情報" (Text Information). The "入力" section contains a chart showing character count distribution. The "テキスト情報" section displays analysis results, including a bar chart for target text analysis and a table for input text analysis. On the right side, there is a sidebar titled "利用可能な分析ツール" (Available Analysis Tools) with several options: テキスト評価 (Text Evaluation), AI診断 (AI Diagnosis), 語彙情報 (Vocabulary Information), 接続表現 (Conjunctions), ワードクラウド (Word Cloud), 類義어リスト (Synonym List), and 語彙ワーク (Vocabulary Work). The bottom of the interface shows the footer "jWriter v0.9.8f | 2025 Kakenhi Grant-in-Aid for Scientific Research (B) 24K00078, 23K21939".

研究背景

生成AIを組み込んだ日本語作文診断システムの開発と普及に関する研究

研究課題

研究課題/領域番号	24K00078
研究種目	基盤研究(B)
配分区分	基金
応募区分	一般
審査区分	小区分02090:日本語教育関連
研究機関	早稲田大学
研究代表者	李在錦 早稲田大学, 国際学術院(日本語教育研究科), 教授 (20450695)
研究分担者	浅尾 仁彦 国立研究開発法人情報通信研究機構, ユニバーサルコミュニケーション研究所データ駆動知能システム研究センター, 主任研究員 (10755119) 三谷 彩華 江戸川大学, 国際交流センター, 講師 (20831960) 毛利 貴美 岡山大学, グローバル人材育成院, 准教授 (60623981) 岩崎 拓也 筑波大学, 人文社会系, 助教 (60818037) 長谷部 陽一郎 同志社大学, グローバル・コミュニケーション学部, 教授 (90353135) 石井 雄隆 千葉大学, 教育学部, 准教授 (90756545)
研究期間 (年度)	2024-04-01 – 2027-03-31

<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00078>

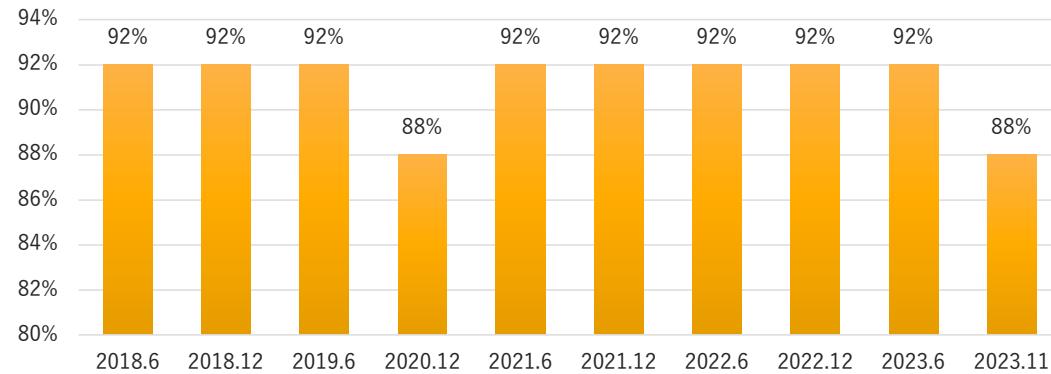
• 3つの問い合わせ

1. 生成AIの日本語能力はどの程度か？
2. 生成AIのフィードバックに日本語教師はどの程度、納得するか？
3. どの学習者に対して生成AIのフィードバックを提供するか？

小野塚若菜・岩崎拓也・村田裕美子・李在鎬・若井誠二（2024）「生成AIは日本語読解問題にどのくらい解答できるか—日本留学試験を対象として—」（2024年度日本語教育学会秋季大会）

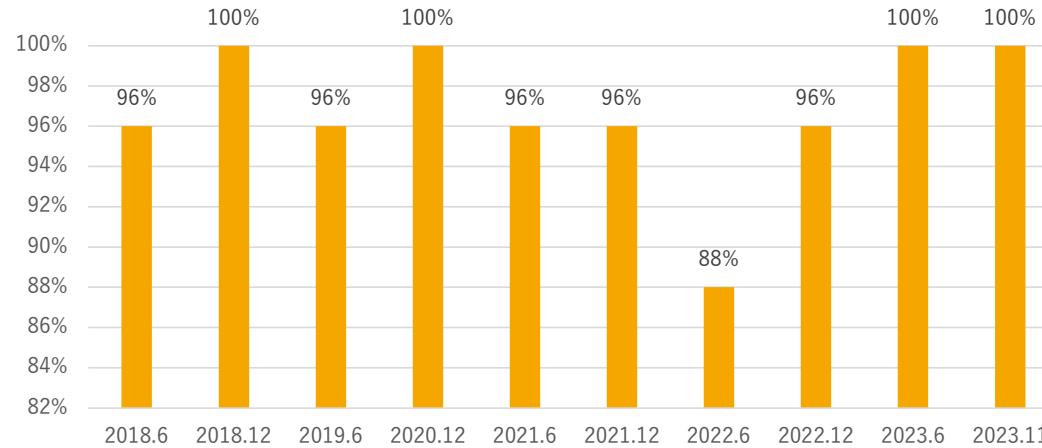
日本留学試験の2018年～2023年のテストをテキスト化し、複数の生成AI（2024年1月の最新モデル）で解答させる

Gemini -1.0



→正解率 91.2%

ChatGPT -4



→正解率 96.8%

人間の最高得点99%

日本留学試験の試験問題
著作権で保護されたコンテンツです。
講演当日に示します。

日本留学試験の試験問題
著作権で保護されたコンテンツです。
講演当日に示します。

日本留学試験の試験問題
著作権で保護されたコンテンツです。
講演当日に示します。

追跡調査 (2025.1.29)



数秒の間、Thought about図書館資料の社会的共有

解答: 4.「図書館の資料が、誰でも簡単に利用できること」

解説:

本文では「図書館資料は、地域住民が共有する知的資源」であり、「自らのリテラシーで図書館資料を検索できない利用者に対しては、図書館側が支援・援助をおこなうこと」が大切だと述べられています。これによって「そうしたリテラシーを習得した人の独占物」にならず、「誰でも等しく利用できるようにする」ことが「図書館資料の社会的共有」です。つまり、専門知識やリテラシーの有無にかかわらず、図書館の資料をすべての利用者が簡単に利用できる状態を指しています。

選択肢4は、まさにこの内容を表していますので、「下線部(1)『図書館資料の社会的共有』が指すもの」として最も適当だといえます。

□ □ □ □ □ □

ChatGPT o1



Thought for 14 seconds ^

DeepSeek R1

嗯，我现在需要解决这个日语阅读理解题。题目是问下划线部分 (1) “図書館資料の社会的共有”指的是什么，然后有四个选项。首先，我得仔细看一下原文，理解上下文的意思。

原文主要讲的是图书馆作为知识和信息的社会保障装置，应该确保所有居民都能有效利用资源。下划线部分 (1) 是那些具备一定检索能力的人。因此，图书馆需要提供帮助，比如参考服务（レファレンスサービス），来帮助那些不懂得自己查找资料的人，这样资源才能真正被社会共享。

下划线部分 (1) 所在的段落提到，图书馆资料不应该被那些掌握了检索技能的人独占，所以图书馆要通过支援来促进资源的实际共享。这里的关键点在于，图书馆采取措施让所有人，无论是否有检索能力，都能有效利用资料，实现共享。

接下来看选项：

1. 呼吁地区居民捐赠乡土资料到图书馆。这似乎和共享无关，而是关于收集资料。
2. 各地区图书馆都有丰富的乡土资料。这更多是资源的数量，而不是共享方式。
3. 可以从任何地区的图书馆借资料。这可能涉及资源共享，比如馆际互借，但原文重点是在同一图书馆内如何让不同能力的用户都能访问，而不是跨区域借阅。
4. 图书馆资料谁都能轻松利用。这正是原文所说的，通过援助服务让所有人，无论检索能力如何，都能方便使用资料，符合“社会的共有”的含义。

所以正确选项应该是4，因为问题核心是确保资料被所有人容易获取，而不仅仅是那些有技能的人。

問1の正解は、選択肢4「図書館の資料が、誰でも簡単に利用できること」です。

下線部 (1) が登場する文脈では、「リテラシーを習得した人の独占物になる」ことへの批判と、「図書館側が支援・援助をおこなうことによって資源の実質的共有を図る」必要性が強調されています。特にレファレンスサービスが「社会的共有を図る有力な方法」と説明されている点から、技術や知識の有無にかかわらず全ての利用者が平等に資料を活用できる状態を指していることが分かります。

選択肢4は「誰でも簡単に利用できる」という本質的なアクセシビリティを表現しており、リテラシーの壁を越えた共有を実現するという文脈に合致します。他の選択肢は地域間連携 (3) や資料収集 (1,2) など別次元の要素を扱っており、本文が問題視する「リテラシー格差」の解消という観点から外れています。

□ □ □ □

日本語の理解力がすごいことは分かったが、
日本語の産出に関わる能力はどうなの？



ChatGPTの書く力は？

「インターネット時代に新聞は必要か？」

現代はインターネットの時代であり、私たちはスマートフォンやパソコンを使って、いつでもどこでも最新のニュースに触れることができる。速報性や検索性に優れ、画像や動画も含まれるネットニュースは非常に便利である。そのため、「紙の新聞はもう必要ないのではないか」と考える人も増えている。しかし、私は紙の新聞にもまだ重要な価値があり、今の時代にも必要だと考える。

まず第一に、紙の新聞には情報の信頼性がある。インターネット上には誰でも情報を発信できるため、誤情報や噂、偏った意見も多い。それに対して、新聞の記事は記者が調査・取材を行い、編集部による確認を経て掲載されている。

：

次に、紙の新聞には「偶然の発見」という利点がある。ネットでは自分の興味のあるニュースしか読まなくなりがちだが、新聞はページをめくっているうちに、関心のなかった分野の記事にも自然と目が行く。

：

さらに、新聞は年齢や生活環境を問わず利用できるメディアでもある。

このように、信頼性、偶然性、そして誰にでも届くという点で、紙の新聞にはインターネットにはない価値がある。したがって、インターネット時代においても紙の新聞は必要な存在であると私は思う。

A

私は、「これからも、新聞や雑誌は必要だ」という意見を支持します。確かに、インターネットは世界中のどこにいてもアクセスできる、早く情報が手に入る、最新情報を知り得る等のメリットがあります。同時に、匿名性が強く、情報に信頼性がないこともあります。新聞や雑誌の利点を考慮すると、その必要性がはっきりします。

まず第一に、どの年代の人にも利用が可能であるという点です。：

次に考えられるのは、持ち運びが可能であるため、どこでもニュースをチェックできるという利便性です。：

最後に、新聞や雑誌という形あるものを手にとって見るというこの必要性について考えます。インターネットでは、自分が望む情報のみを、すばやく入手できますが、我々は世界で起こっていることや国内のニュースなど、幅広い情報にも目を通すべきだと思います。：

以上のように、新聞・雑誌には利点・必要性があると思います。何よりも、新聞・雑誌を読むことによって得られる楽しみがあるため、私はそれらが必要だと思うのです。入浴の際に手にする雑誌、コーヒーを飲み一息つきながら読む新聞など、私個人にとって、新聞・雑誌は生活の一部となっているのです。

B

近年、インターネットの発達によって、ニュースをオンラインで読む人が急増している。その結果、紙の新聞の購読者数は減少の一途をたどっている。しかし私は、インターネットがどれほど普及しても、紙の新聞は依然として必要だと考える。

まず、新聞の大きな意義は「情報の信頼性」にある。インターネット上では、誰でも自由に情報を発信できる反面、誤った情報や意図的に操作されたニュースも多い。その点、新聞記事は編集者や専門記者による事実確認を経て掲載されるため、一定の信頼性が担保されている。

：

次に、新聞は「情報の整理力」においても優れている。ネットニュースは膨大な量の情報が絶えず更新されるため、重要な出来事を見逃しやすい。

：

さらに、紙の新聞には「読む環境の質」という利点もある。スマートフォンやパソコンでニュースを読む場合、通知や広告が集中を妨げることが多い。それに対し、新聞は静かに文字に向き合う時間を提供してくれる。紙をめくるという身体的な行為もまた、情報をじっくり味わう読書体験につながっている。

私は、インターネットと新聞は対立するものではなく、互いに補い合う存在として共存していくべきだと考える。

C

ChatGPTの書く力は？

「インターネット時代に新聞は必要か？」

現代はインターネットの時代であり、私たちはスマートフォンやパソコンを使って、いつでもどこでも最新のニュースに触れることができる。速報性や検索性に優れ、画像や動画も含まれるネットニュースは非常に便利である。そのため、「紙の新聞はもう必要ないのではないか」と考える人も増えている。しかし、私は紙の新聞にもまだ重要な価値があり、今の時代にも必要だと考える。

まず第一に、紙の新聞には情報の信頼性がある。インターネット上には誰でも情報を発信できるため、誤情報や噂、偏った意見も多い。それに対して、新聞の記事は記者が調査・取材を行い、編集部による確認を経て掲載されている。

：

次に、紙の新聞には「偶然の発見」という利点がある。ネットでは自分の興味のあるニュースしか読まなくなりがちだが、新聞はページをめくっているうちに、関心のなかった分野の記事にも自然と目が行く。

：

さらに、新聞は年齢や生活環境を問わず利用できるメディアでもある。

：

このように、偶然性、そして誰にでも届くというGPT-40にはインターネットにはない価値がある。したがって、インターネット時代においても紙の新聞は必要な存在であると私は思う。

私は、「これからも、新聞や雑誌は必要だ」という意見を支持します。確かに、インターネットは世界中のどこにいてもアクセスできる、早く情報が手に入る、最新情報を知り得る等のメリットがあります。同時に、匿名性が強く、情報に信頼性がないこともあります。新聞や雑誌の利点を考慮すると、その必要性がはっきりします。

まず第一に、どの年代の人にも利用が可能であるという点です。：

次に考えられるのは、持ち運びが可能であるため、どこでもニュースをチェックできるという利便性です。：

最後に、新聞や雑誌という形あるものを手にとって見ることの必要性について考えます。インターネットでは、自分が望む情報のみを、すばやく入手できますが、我々は世界で起こっていることや国内のニュースなど、幅広い情報にも目を通すべきだと思います。：

以上のように、新聞・雑誌には利点・必要性があると思います。何よりも、新聞・雑誌を読むことによって得られる楽しみがあるため、私はそれらが必要です。日本人の大学生に手にする雑誌、コマ雑誌、読む新聞など、私個人にとって、新聞・雑誌は生活の一部となっているのです。

A

近年、インターネットの発達によって、ニュースをオンラインで読む人が急増している。その結果、紙の新聞の購読者数は減少の一途をたどっている。しかし私は、インターネットがどれほど普及しても、紙の新聞は依然として必要だと考える。

まず、新聞の大きな意義は「情報の信頼性」にある。インターネット上では、誰でも自由に情報を発信できる反面、誤った情報や意図的に操作されたニュースも多い。その点、新聞記事は編集者や専門記者による事実確認を経て掲載されるため、一定の信頼性が担保されている。

：

次に、新聞は「情報の整理力」においても優れている。ネットニュースは膨大な量の情報が絶えず更新されるため、重要な出来事を見逃しやすい。

：

さらに、紙の新聞には「読む環境の質」という利点もある。スマートフォンやパソコンでニュースを読む場合、通知や広告が集中を妨げることが多い。それに対し、新聞は静かに文字に向き合う時間を提供してくれる。紙をめくるという身体的な行為もまた、情報をじっくり味わう読書体験につながっている。

私は、インターネット立するものではなく、互いに補い合う存在として共存していくべきだと考える。

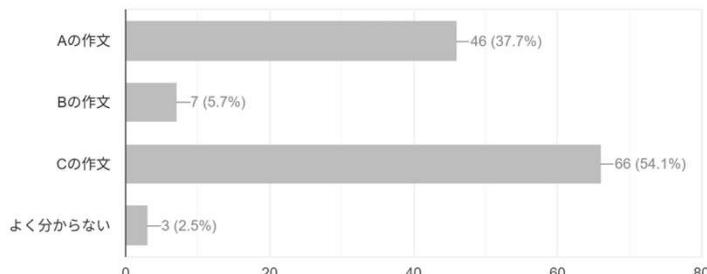
B

C

ChatGPTの書く力は？

「インターネット時代に新聞は必要か？」

現代はインターネットの時代であり、私たちが
もっともよく書いていると思われる作文はどれですか？



がある。ネットでは自分の興味のあるニュースしか読まなくなりがちだが、新聞はページをめくっているうちに、関心のなかった分野の記事にも自然と目が行く。⋮⋮⋮

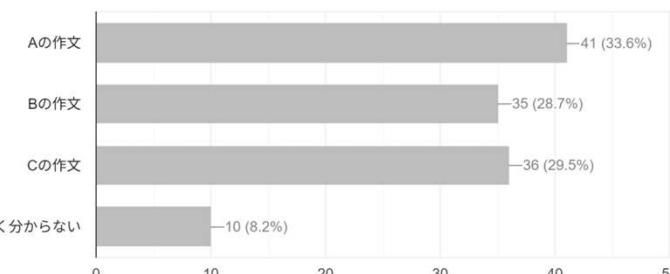
さらに、新聞は年齢や生活環境を問わず利用できるメディアである。：：：：

このようないい所には偶然性、そして誰にでも届くという **GPT-40** 間にはインターネットにはない価値がある。したがって、インターネット時代においても紙の新聞は必要な存在であると私は思う。

私 122名の日本語教師 必要だ」と

にいてもア
最新情報を
同時に、置
多くあり
、その必要
どの年代の
。：：：：
るのは、持
ユースをチ
：：
や雑誌とい
うことの必
では、自分

AIが書いたと思われる作文はどれですか？



ばやく入手できますが、我々は世界で起こっていることや国内のニュースなど、幅広い情報にも目を通すべきだと思います。：：：：

以上のように、新聞・雑誌には利点・必要性があると思います。何よりも、新聞・雑誌を読むことによって得られる楽しみがあるため、私はそれらが必要 読む新聞など 私個人にとって、新聞・雑誌は生活の一部となっているのです。

近年、インターネットの発達によって、ニュース
が増えて、その種類も増えて、その仕事も

さらに、紙の新聞には「読む環境の質」という利点もある。スマートフォンやパソコンでニュースを読む場合、通知や広告が集中を妨げることが多い。それに対し、新聞は静かに文字に向き合う時間を提供してくれる。紙をめくるという身体的な行為もまた、情報をじっくり味わう読書体験につながっている。

私は、インターネットで立するものではなく、互いに補い合う存在として共存していくべきだと考える。

A

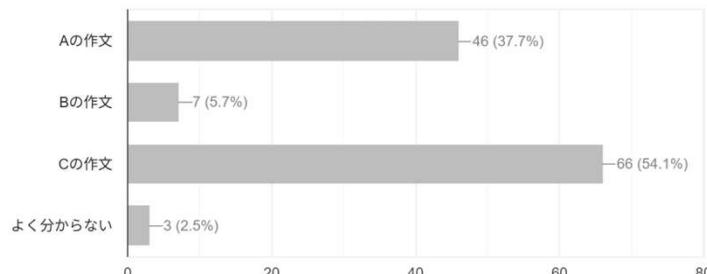
B

C

ChatGPTの書く力は？

「インターネット時代に新聞は必要か？」

現代はインターネットの時代であり、私たちは
もっともよく書けていると思われる作文はどれですか？
正解 0/122 件

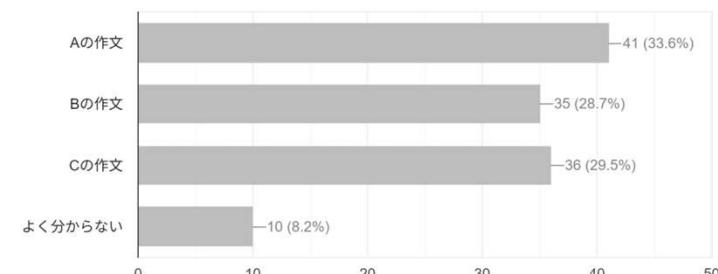


がある。ネットでは自分の興味のある
か読まなくなりがちだが、新聞はペー
ているうちに、関心のなかった分野の記事にも自
然と目が行く。：：：
さらに、**3.32** や生活環境を問わず利用で
きるメディア。：：：
このよう **GPT-40** 偶然性、そして誰にでも
届くという聞にはインターネットに
はない価値がある。したがって、インターネット
時代においても紙の新聞は必要な存在であると私
は思う。

A

私は、「これからも、新聞や雑誌は必要だ」と
いいてもア
最新情報を
同時に、匿
も多くあり
、その必要
どの年代の
。：：：
るのは、持
ユースをチ
：：
や雑誌とい
うことの必
では、自分

AIが書いたと思われる作文はどれですか？
正解 0/122 件



jWriterによる自動採点の順番と教師の順番は同じ
を通すべきだと思います。：：：
以上のとおりに新聞・雑誌には利点・必要性が
あると思 **3.24** よりも、新聞・雑誌を読むこと
によつて、**日本人の大学生** 楽しみがあるため、私はそれ
らが必要に手にする雑誌、コマ **3.83** 読む新聞など、
私個人にとって、新聞・雑誌は生活の一部となつ
ているのです。

B

近年、インターネットの発達によって、ニュース
の種類も豊富になり、読者層も広がっています。
しかし、新聞や雑誌は、まだ多くの人々の生活に
欠かせない要素として位置づけられています。

に、紙の新聞には「読む環境の質」という利
る。スマートフォンやパソコンでニュースを
読む場合、通知や広告が集中を妨げることが多い。
それに対し、新聞は静
かに読む環境を提供してくれる。紙をめ
た、情報をじっくり味
3.83 体的な行為もまた、つながっている。

GPT-5 私は、インターネットで立するものでは
なく、互いに補い合う存在として共存していくべき
だと考える。

C

生成AIと言語教育

- 水本篤：生成AIは、ライティング活動において学習者と教育者双方にとって効果的な支援ツールになり得ること

第8章

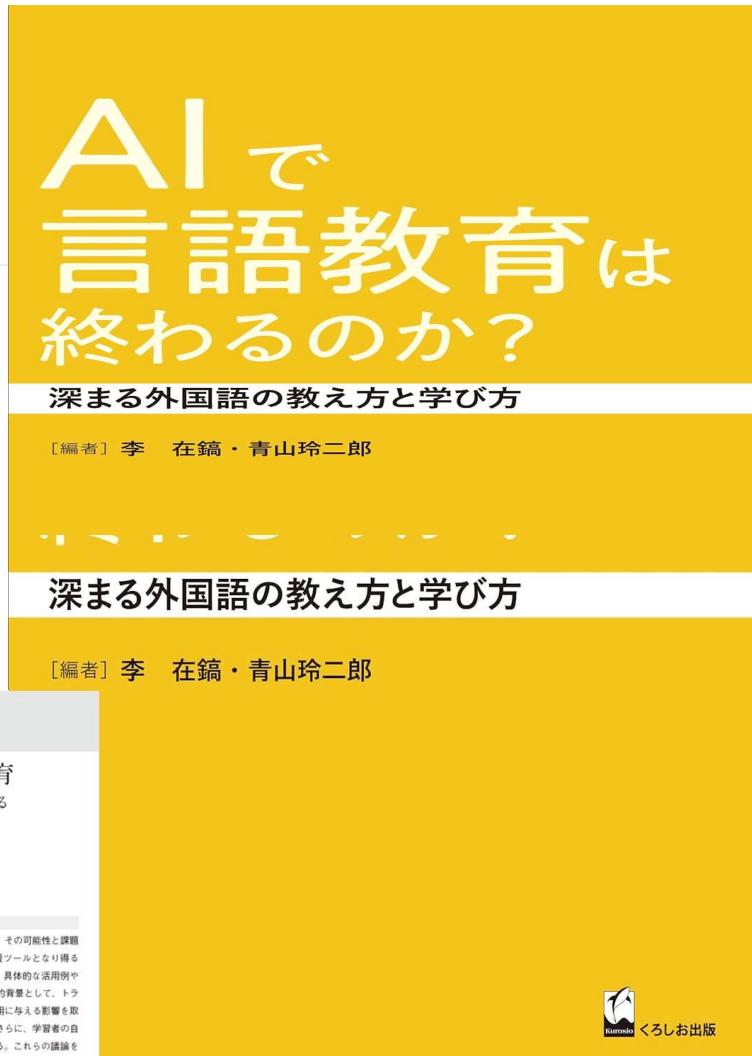
AIとライティング教育 —英語ライティング教育における 生成AIの活用と課題—

水本 篤

概要

本章では、生成AIの英語ライティング教育への応用について、その可能性と課題を探る。生成AIは学習者と教育者双方にとって効果的な支援ツールとなり得るが、同時に倫理的な懸念も存在する。これらの課題を踏まえ、具体的な活用例や指導方法を紹介する。また、言語教育におけるAI活用の理論的背景として、トランスランケージングの概念や学習者と教師のビリーフがAI活用に与える影響を取り上げ、生成AIをどのように位置づけるべきかを考察する。さらに、学習者の自律性を促進するためのメタ認知的アプローチについても論じる。これらの議論を通じて、生成AIと共に共生する新たな英語教育の在り方を模索する。

キーワード
英語、生成AI、倫理的使用、トランスランケージング



生成AIと言語教育

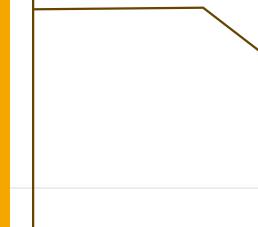
水本 (2025:139) *

表1 英語ライティングにおけるChatGPTの効果

側面	効果	文献
全体的スキル	ChatGPTを使ってライティングの練習をした学習者は、ライティング能力（スコア）が向上した。	Boudouaia et al. (2024) Ghafouri et al. (2024) Tsai et al. (2024)
内容の質	ChatGPTを使うと、より質の高いエッセイを作成できる。	Guo and Wang (2024)
文法	ChatGPTは文法的な誤りを特定し修正するのに役立つ。	Kohnke et al. (2023) Mahapatra (2024)
語彙	ChatGPTは学習者がより洗練された語彙を使用することができる。	Song and Song (2023)
動機・自律性	ChatGPTは学習者のライティングに対する動機や自律性を高めることができる。	Lo et al. (2024) Teng (2024)

* 水本 篤 (2025) 「AIとライティング教育」李在鎬 (編) 『AIで言語教育は終わるのか—深まる外国語教育の考え方と学び方』 くろしお出版, pp.136-153.

学習者の言語能力の発達に対して、
生成AIは、どのようなモデルを持っているのか？



言語教育×プロフィシェンシー

- ・プロフィシェンシー (Proficiency)
 - ・語学における「堪能度」「熟達度」「実力」とも訳される概念 (*鎌田ほか2009)。
 - ・言語の学習と教育の両面においてもっとも本質的な現象

さて、本学会はその名の通り日本語のプロフィシェンシーを研究する学会です。日本語を学ぶ人たちが願う「日本語がうまくなりたい」という思いは、言い換えると「日本語プロフィシェンシー（熟達度）のレベルを上げていきたい」ということでもあります。日本語の授業における「到達度」とは違う観点で日本語の上達を願っていると捉えることができると思います。本学会のキーワードである「プロフィシェンシー」ということばは、さらに多様な解釈が可能ですが、私なりの価値づけをしてみたいと思います。

日本語プロフィシェンシー
研究学会
(<http://proficiency.jp/>)

*鎌田 修ほか(編著)(2009)『プロフィシェンシーと日本語教育』ひつじ書房

言語教育×プロフィシェンシー

- 語源としては、proficere（前に進む）。言語を使って、どんなタスクが実行できるかを捉えるための尺度（*牧野2008）
- 言語を運用する総合的な能力。第二言語/外国語においては学習者が習得した言語知識を様々な状況の中で正確に流暢に適切に使いこなす程度をproficiencyと呼ぶことが多い（『英語教育用語辞典』大修館書店）

*牧野成一（2008）「OPI、米国スタンダード、CEFRとプロフィシェンシー」鎌田 修ほか(編)(2008)『プロフィシェンシーを育てる』凡人社

プロフィエンシーの多義性

- ・テスト・評価研究：到達度テスト (Achievement test) と熟達度テスト (proficiency test) の対 (**李(編著)2015)
- ・学習における段階性を評価し、教育に結び付ける
 - ・日本語能力試験 JLPT (Japanese Language Proficiency Test)
 - ・OPI (Oral Proficiency Interview)

現実世界における効果的言語使用能力。機能的言語能力 (**Swender & Vicars 2012)

日本語による課題遂行能力
(**李2011)

*李在鎬 (編著) (2015) 『日本語教育のための言語テストガイドブック』くろしお出版

*李在鎬 (2011) 「日本語能力試験の挑戦～新しい日本語能力試験を例に」(国際交流基金事業レポート14)『日本語学』第30巻1号、pp.95-107、明治書院

**Swender, E., & Vicars, R. (2012) *The ACTFL oral proficiency interview tester training manual 2012*. White Plains, NY: ACTFL.

プロフィシェンシーの段階性

- ・ プロフィシェンシーは山や階段のイメージで捉えられている

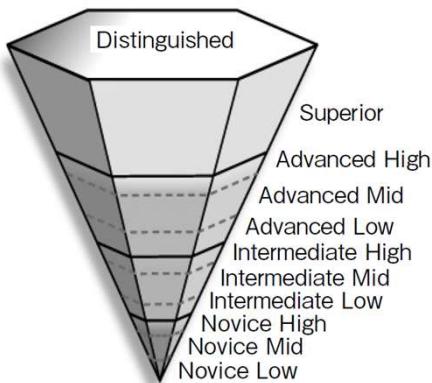
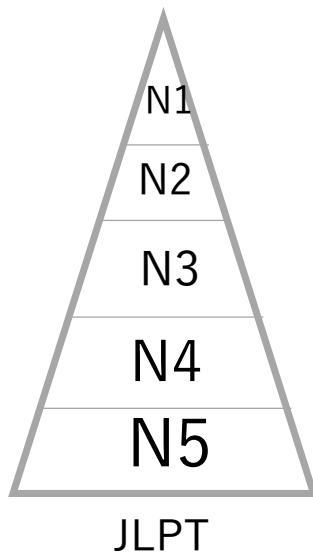
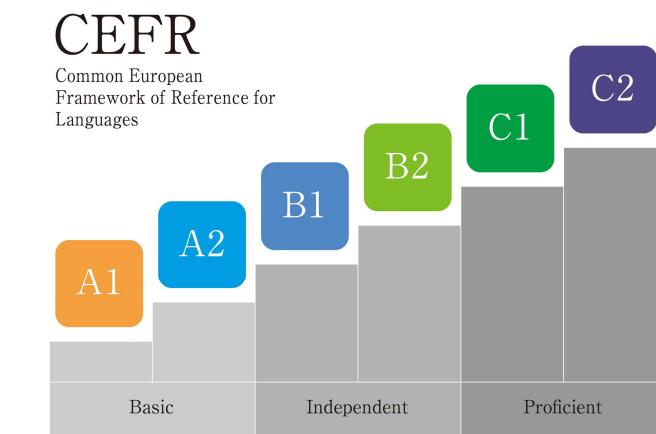
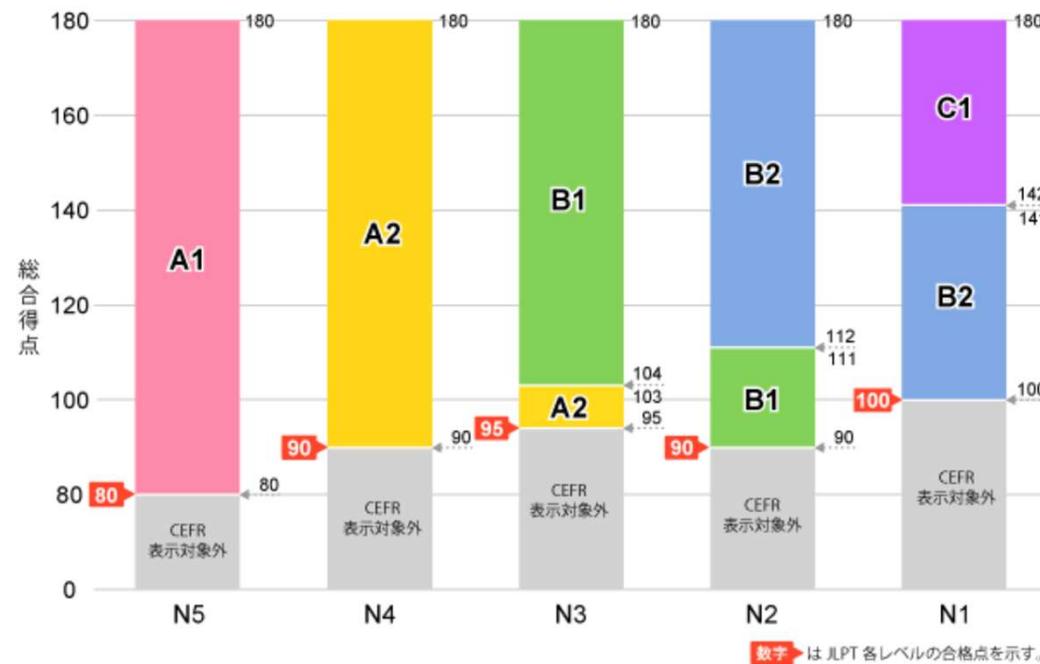


図1 ACTFL 能力スケール



プロフィシェンシーの互換性

図1:JLPT(N5~N1)総合得点とCEFRレベル(A1~C1)の対応



https://www.jlpt.jp/about/cefr_reference.html

ケーススタディ

李在鎬・三谷彩華・毛利貴美（2025）「生成AIには初級レベルの作文は書けない」（日本語教育学会 2025年度秋季大会）

01 研究課題

生成AIは異なる熟達度の文章作成ができるか。

02 研究課題

生成AIはどのような言語的要素でプロフィシエンシーを制御しているのか。

方法

- **【Step1：学習者作文の人手評価】** 「住みやすい国コーパス」に収録されている127編の意見文を2名の教師が採点
- **【Step2：意見文の自動生成】** 上位群・中位群・下位群で12編を抽出。これらをプロンプトに含めて、GPT-o1で文章生成。150編（上位群・中位群・下位群×50編）の意見文を自動生成。
- **【Step3：計量分析】** GPT-o1が自動生成した意見文を日本語学習者作文評価システム「jWriter」で計量分析。

*伊集院郁子・高野愛子(2020)『日本語を学ぶ人のための アカデミック・ライティング講座』アスク

<https://sumiyasui.jpn.org/>



住みやすい国プロジェクト(Sumiyasukuni-Project)によこそ

プロジェクト紹介

あいさつ 研究メンバー よくある質問集 問い合わせ

はじめに

村田裕美子 (LMU München, ミュンヘン大学)

本プロジェクトはヨーロッパの日本語教育に貢献することを目的に、ドイツで開始されたプロジェクトです。とりわけ、ドイツ語話者の日本語学習者の話し言葉と書き言葉のサンプルを集め、習得研究に活用することを目指してスタートしました。話し言葉はOPIを用いて、会話の音声を文字化する方法で作成し、書き言葉は「住みやすい国の条件と理由」というトピックで意見文を書いてもらう方法で作成しました。当初は、代表者の個人プロジェクトとして細々と行っていましたが、ヨーロッパ日本語教育シンポジウムなどの学会での発表をきっかけに、次第に研究協力者が増え、自発的に成長したプロジェクトです。

住みやすい国コーパス (Sumiyasukuni-Corpus) は、2024年12月の時点で、話し言葉編では、ドイツ語話者の日本語学習者45名 (初級15名、中級15名、上級15名) の文字化資料を公開しています。書き言葉編では、合計164名のデータを公開しています。ドイツ語話者 (初級20名、中級20名、上級20名) 、セルビア語話者 (中級20名) 、クロアチア語話者 (中級20名) 、スロベニア語話者 (初級4名、中級25名、上級5名) 、ボスニア語 (初級4名、中級4名、上級1名、未受験者1名) の日本語学習者127名のデータ、日本の大学生20名のデータを公開しています。なお、話者の区分は収集地をベースにしています。今後、他のヨーロッパ地域の学習者データも収集・公開していく計画です。

謝辞

本コーパスの発話データは、ドイツ・ミュンヘン大学(Ludwig-Maximilians-Universität München)、スイス・チューリヒ大学 (Universität Zürich)、セルビア・ベオグラード大学(Универзитет у Београду)、クロアチア・ブーラ大学(Sveučilište Jurja Dobrile u Puli)、スロベニア・リュブリャナ大学(Univerza v Ljubljani)、サラエボ大学 (Univerzitet u Sarajevu)、日本・早稲田大学の学生および関係者によるものです。彼らの協力なしでは実現できません。また、言語能力の測定のため、筑波大学グローバルコミュニケーション教育センターで開発された「SPOT」のウェブ版を使用しています。関係者の皆様に感謝申し上げます。

<https://jreadability.net/>

jReadability PORTAL

日本語の学習者と教師のためのWebシステム

jReadability jWriter JEV Hagoromo

日本語の学習と教育をもっと楽しく効果的に

各システムの詳細は個別の説明ページをご覧ください。
ご質問やコメントがあれば Facebookグループ にご参加ください。

Japanese / English



日本語文章難易度判定システム
jReadability

日本語文章のテキストを入力すると、その難易度を6段階で判定します。詳細な語彙情報を出力したり、テキストに含まれる語句の意味や用法を表示したりする機能もあります。



日本語学習者作文評価システム
jWriter

日本語学習者の作文テキストを入力すると、推測される作文力の割定レベルを5段階で判定します。作文の様々な特徴に応じてアドバイスを示します。



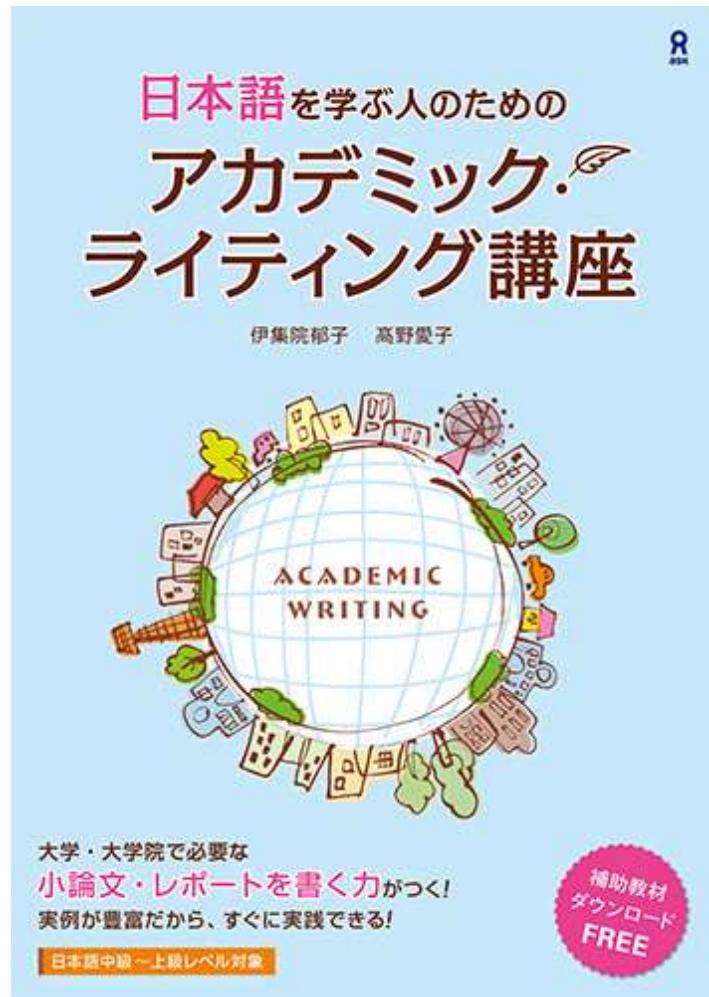
日本語教育語彙表
JEV

日本語教育で重要な約18,000の語を収録する日本語教育語彙表を検索し、語義、用例、特性を表示します。コロケーション情報、類義語情報、読み込み音声も搭載されています。



機能語用例文データベース
はごも

文法項目が実際に使われている用例文を、各種の関連情報と共に表示します。用例文は複数のコーパスから抽出されており、一部の項目には英訳も記載されています。[外部サイト]

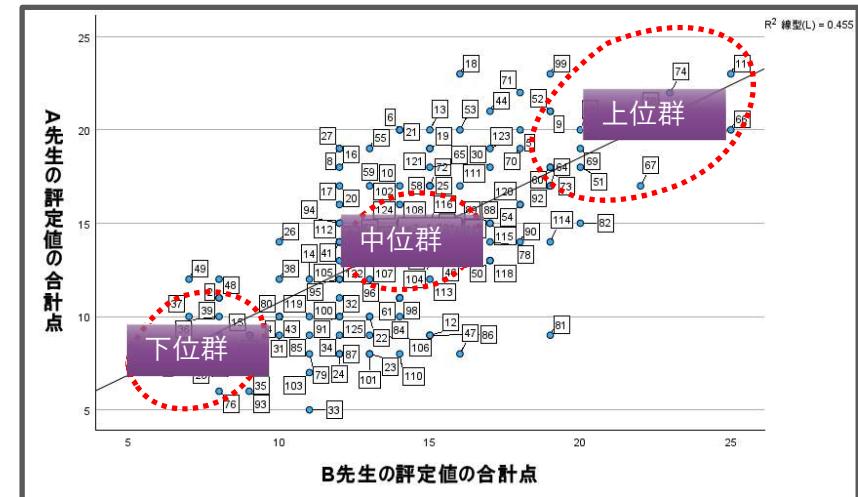
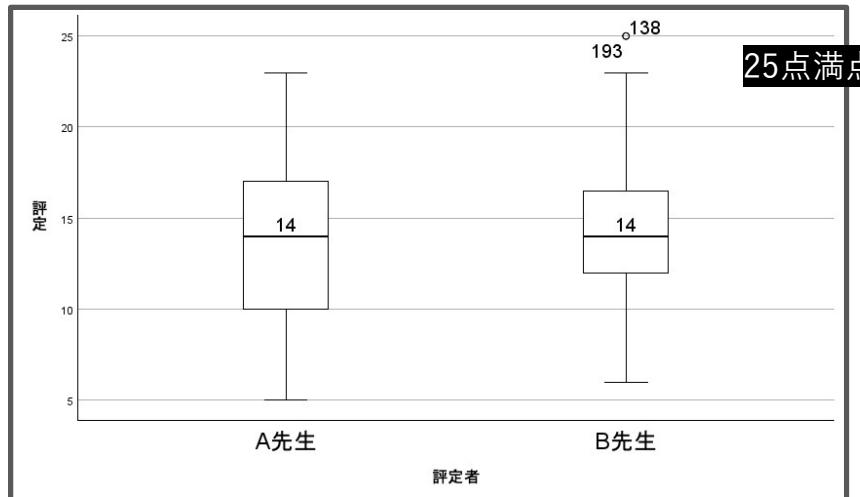


1. 主張：主張（課題に対する書き手の回答）が容易に伝わるか。
2. 根拠：主張を支える根拠に説得力があるか。
3. 論理構成：全体の論理構成が明確で、段落間、段落内の情報が整理されているか。
4. 正確さ：日本語表現（文型、文法、語彙、表記）に誤用がないか。
5. 適切さ：アカデミック・ライティングにふさわしい表現（「ふつう体」、「かたい表現」、多様な表現）が適切に用いられているか。

結果：学習者作文の人手評価

【Step1：学習者作文の人手評価】

- 信頼性の確認：Cronbach の $\alpha = .902$ 、2名の5観点の5水準の合計値の箱ひげ図と散布図



結果：学習者作文の人手評価

【Step2：プロンプト】

ChatGPT-o1モデル
(2025年1月)

「住みやすい国」の条件と理由」というテーマで作文を書いてください。タスクと作文例を示します。

#タスク

タスク1 #作文例のセクションで、下位群の作文例として12本の作文、中位群の作文例として12本の作文、上位群の作文例として12本の作文を提示します。これらはすべて日本語学習者が書いたものです。この3者の違いを以下の5つの観点で分析してください。

- ・観点1 主張性：主張が容易に伝わるか。
- ・観点3 論理構成：全体の論理構成が明確で段落内に情報が整理されているか。
- ・観点5 適切さ：アカデミックライティングとして適切な文体と表現であるか。
- ・観点2 根拠性：主張を支える根拠に説得力があるか。
- ・観点4 正確性：日本語の表記や語彙や文法が正確か。

タスク2. 12本の下位群の作文例と同程度の習熟度と長さの作文を50本書いてください。

タスク3. 12本の中位群の作文例と同程度の習熟度と長さの作文を50本書いてください。

タスク4. 12本の上位群の作文例と同程度の習熟度と長さの作文を50本書いてください。

#作文例

- ・下位群の作文例 1 2 編：：：：：
- ・中位群の作文例 1 2 編：：：：：
- ・上位群の作文例 1 2 編：：：：：

下位群

わたしはすみやすい国を考えるとき、まずは人がやさしいかどうかが大事だと思います。もしまわりの人がいつもいらっしゃって、さけんでいたら、安心して暮らせません。やさしい人が多い国なら、こまったときに手を貸してくれる人がいるでしょう。次に大切なことは物価だと思います。あまりに高い国では、普通のアルバイトだけでは生活できません。家賃が高すぎると、きっと部屋を借りるのがむずかしいでしょう。スーパーの値段が安ければ、毎日きちんとごはんを買えます。さらに、病院が近くにあって、お金がそこまで高くないといいですね。病気になんでも大丈夫な仕組みがあるのは安心です。そして、治安も無視できません。夜に道をあるくとき、こわい気持ちにならない国はいいと思います。それから、楽しく休みをすごせる場所がある国だと、生活がもっと楽しくなるでしょう。公園や川や自然がきれいだったら、リラックスできると思います。最後に、その国の文化や言語もわたしに合えば、ずっと住みたい気持ちになりますね。

中位群

私が思う住みやすい国のもう一つの大きな要素は「文化や芸術を楽しめる環境」です。美術館や博物館、コンサートホールや演劇が身近にあると、週末や休日に豊かな時間を過ごすことができます。日々忙しく働いていても、アートに触ることでリフレッシュできる人は多いでしょう。

さらに、子どもが芸術や音楽に気軽に親しめる機会が多い国は、次の世代の創造力を育むためにも良いと思います。また、食文化の多様さも見逃せません。外国の料理を楽しめるレストランが多かったり、伝統的な郷土料理が残っていたりすると、食事の楽しみが広がります。毎日のごはんが単調だと、生活もつまらないと感じるかもしれません。加えて、地域コミュニティとの付き合い方も大切です。祭りや行事に参加して、地元の人と交流できる国は、孤独を感じにくいでしょう。

新しく引っ越してきた人でも歓迎される雰囲気があれば、すぐに仲間ができるはずです。この国の人たちは文化やひとのつながりが感じられる場所こそ、本当に住みやすい国ではないでしょうか。

GPT-01が自動生成した作文例

上位群

「住みやすさ」を語るときに、私はいつも「コミュニティ」というキーワードを重視している。国全体としての制度や環境が整っていても、結局のところ私たちが日々接するのは地域社会の人々や職場の同僚だ。そこに温かなコミュニティがあるかどうかで、孤独感が大きく変わる。

高齢化が進む社会では、特に地域コミュニティの重要性が増しているように思う。遠方に住む家族が日常的に介護を手伝えないケースも多い中で、自治体や近隣住民が情報共有し、見守りネットワークを築いている国や地域は、年配者にとって安心感が高いだろう。また、若い人が困っているときにサポートし合える仕組みがあると、精神的にも支えられるはずだ。

そして、このコミュニティの力を強化するには、行政の支援だけでなく、市民自身の自主的な活動が不可欠だ。町内会やボランティア団体、NPOなどが連携し、子どもからお年寄りまで多世代が交流する機会を作っていくば、人々の絆はより強固なものになるだろう。

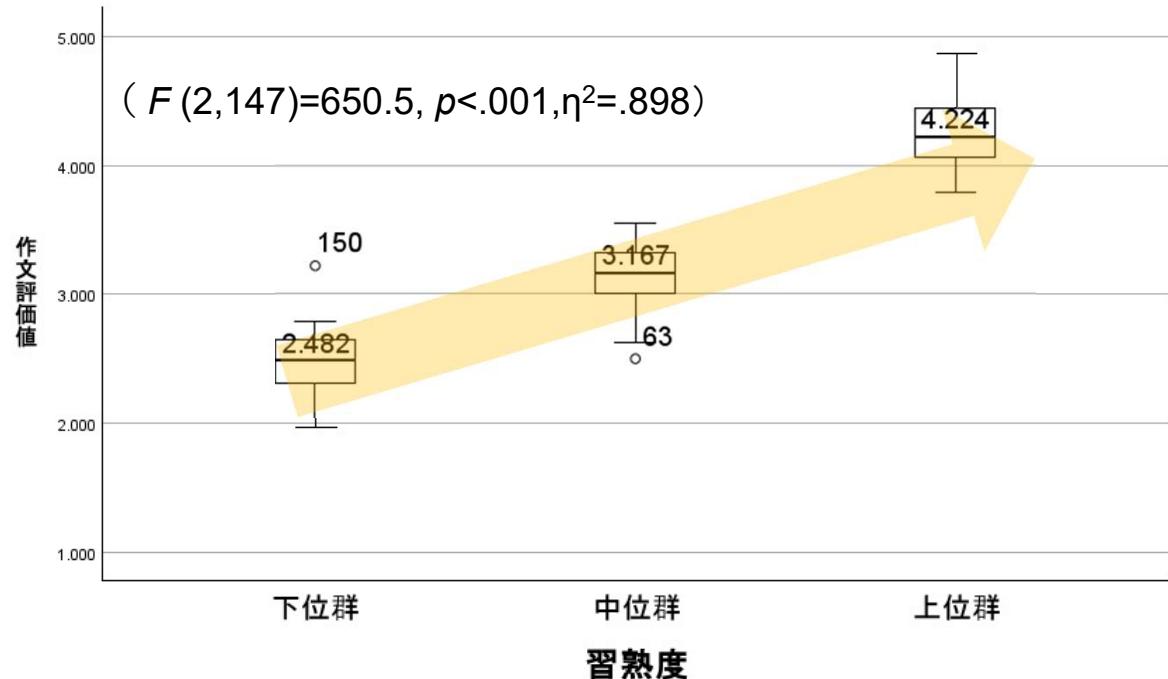
さらに、デジタル技術が進んだ現代では、オンラインコミュニティも重要な役割を果たす。SNSやチャットツールを活用して、地域の課題やイベント情報を共有する動きが広がっている。ただし、ネット上のやり取りだけでは誤解や対立が生じる一面もあるため、最終的には対面での交流の場も必要だと感じる。

こうしたコミュニティの充実こそ、経済指標や社会保障の数値だけでは測れない、本質的な「住みやすさ」に繋がるのではないだろうか。

結果：計量分析の結果

- jWriterの回帰式による評価値*
- 分散分析の結果、有意差あり

*作文評価値=1.637+平均文長×0.045+中級後半語×0.021+タイプトークン比×-0.430+動詞×0.015+中級前半語×0.011+総文字数×-0.004+和語×0.007+漢語×0.007

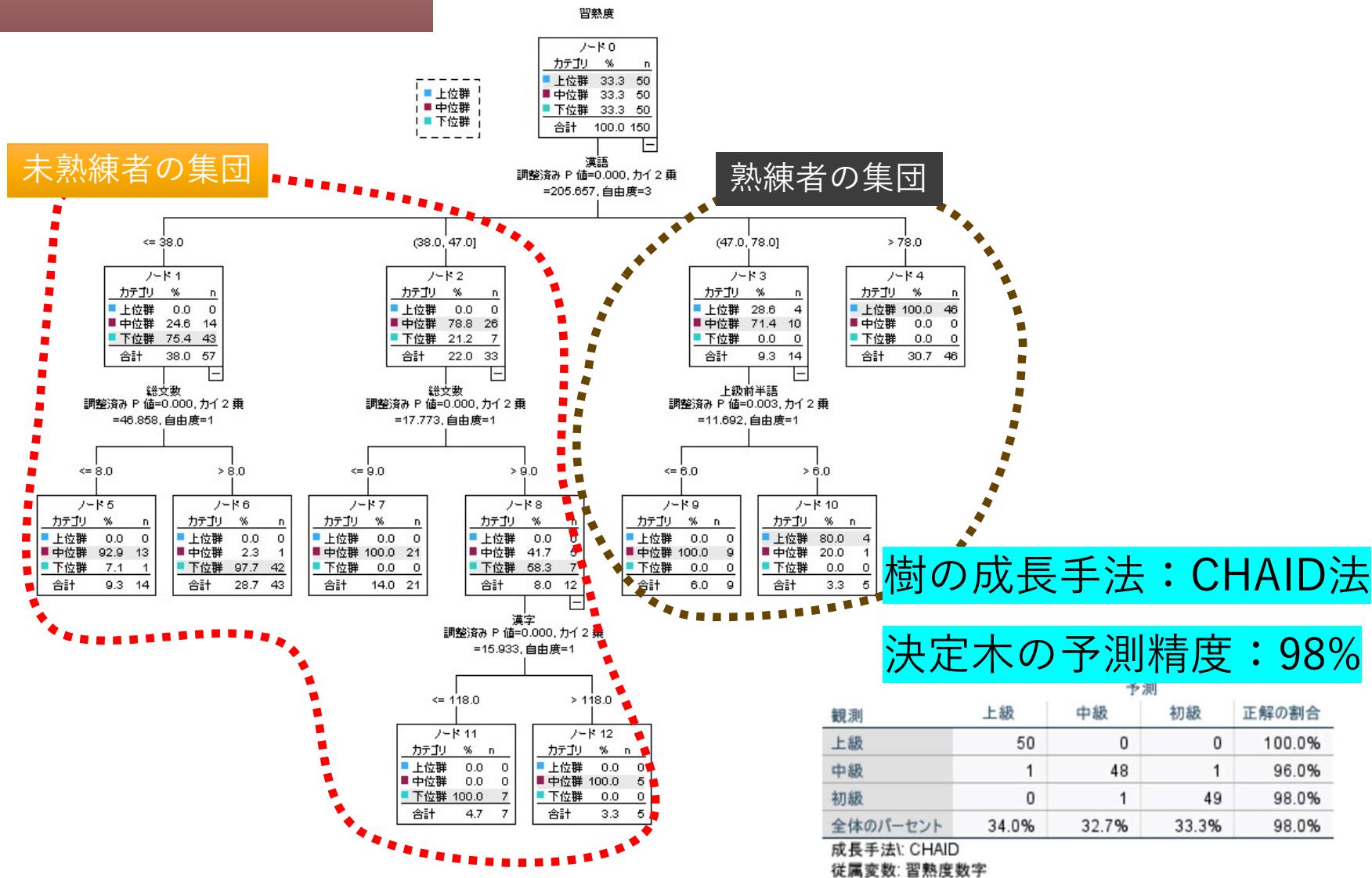


結果：計量分析の結果

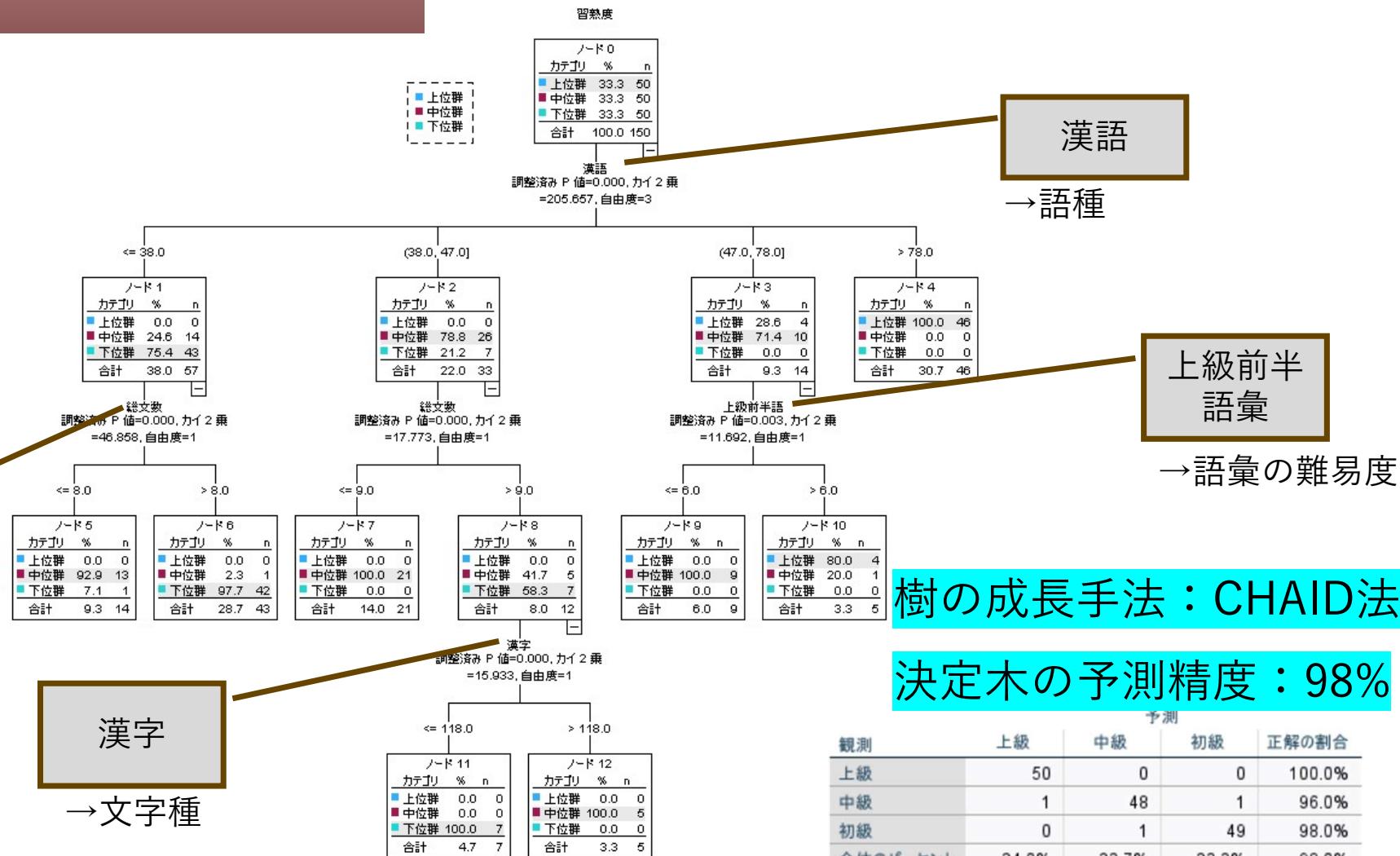
		jWriterの評価レベル					合計
		初級	中級	上級	超級	測定不可*	
GPT-o1	下位群	0	27	23	0	0	50
	中位群	0	1	48	1	0	50
	上位群	0	0	0	42	8	50
合計		0	28	71	43	8	150

* 超級から突き抜けているレベル

ChatGPTはどのような要素でプロフィシエンシーを調整しているのか。



ChatGPTはどのような要素でプロフィシエンシーを調整しているのか。



樹の成長手法：CHAID法

決定木の予測精度：98%

観測	予測			
	上級	中級	初級	正解の割合
上級	50	0	0	100.0%
中級	1	48	1	96.0%
初級	0	1	49	98.0%
全体のパーセント	34.0%	32.7%	33.3%	98.0%

結論

01 研究課題

生成AIは、異なる熟達度の文章作成ができるか。

異なる熟達度の文章作成は可能だが、初級レベルの作文は自動生成できない

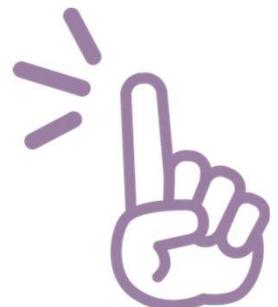
02 研究課題

生成AIは、どのような要素で熟達度を制御しているのか。

漢語の使用率、上級前半レベルの語彙数、文の総数をもとに熟達度を制御している

示唆

- 学習者は、初級は（AIに頼らず）自力で。
- 先生は、初級レベルの作文分析のプロンプトに工夫が必要



今後に向けて

- 「jWriter」：鏡としての生成AI
 - 学習者の文章産出と改稿プロセスに対して、生成AIを「添削者」ではなく自己観察を促す診断・可視化・問い合わせの装置として用いる
 1. メタ認知：自分の文章の特徴・癖・失敗パターンを特定し、言語化できる
 2. 自己調整学習：目標設定→方略選択→実行→モニタリング→自己評価→方略更新の循環を回せる
 3. 転移：次の課題でも再現可能な「書き方の原理（自分のルール）」を獲得する
 - AIは「文章を良くした完成形」を出すのではなく、学習者が自分で良くするための情報を返す。

今後に向けて

- 「jWriter」：鏡としての生成AI
 1. 誤りの鏡（Error Mirror）：反復エラーの型（助詞、活用、照応、語法等）
 2. 明瞭さの鏡（Clarity Mirror）：曖昧さ・指示語・主語欠落・情報過多
 3. 構造の鏡（Structure Mirror）：主張—根拠—例—結論、段落役割、論理接続
 4. 文体の鏡（Register Mirror）：丁寧さ、読み手への配慮、文脈への対応
 5. 語彙運用の鏡（Lexical Mirror）：反復や抽象度、コロケーション、言い換え選択
 6. 過程の鏡（Process Mirror）：計画→執筆→改善のサイクル確率、改稿の質向上
- 教室学習の文脈では、「6」が一番重要。

最後に

1

生成AIを組み込んだ作文診断システムの可能性

2

生成AIの文章模倣は限定的。特に初級の文章に関して

3

AIを「鏡」として活用。自己調整学習のツールとして

ありがとう
ございました。

<https://jreadability.net/>



$$E=mc^2$$